



人類に
奉仕する
ロータリー

2016-2017年度

RI会長 ジョン F. ジャーム

RIテーマ ROTARY SERVING HUMANITY

会長●神山 智子 幹事●山内 一晃 SAA●平野 榮子

国際ロータリー第2830地区

〒031-0081 青森県八戸市柏崎一丁目6-6

八戸プラザホテル内

TEL.0178(44)3121 FAX.0178(44)3128

http://www.8kitarc.com/

例会日：毎週火曜日 12:30開会

八戸北ロータリークラブ 会報

11月 ロータリー財団月間

vol. 16

第 2246 回例会

2016.11.1

司会：小林弘文副SAA

- ・ RIテーマ
- 点鐘
- ・ 国歌斉唱
- ・ ロータリーソング
- ・ 四つのテスト

ビジターの紹介

八戸RC 石橋様

誕生日祝い

川崎 益美会員	横町 芳隆会員
平野 榮子会員	千葉 清彦会員
奥井 義則会員	

ご結婚祝い

源新 和彦会員	源新 育子会員
山内 一晃会員	大入 武志会員
小向 龍悦会員	

地区大会表彰

- ・ ロータリー財団米山功労賞優秀ロータリアン
- 横町芳隆会員

会長要件

神山智子会長

一昨日、青森のアスパムでクラブ戦略計画セミナーがあり、山内幹事、源新育子会員、北山会員と一緒に参加して参りました。クラブ戦略計画セミナーとは、規定の変更によって様々なことが次年度から変わっていく、自分達のクラブではどうするかということを考えなければならない、そのための色々な考え方を発表して頂いて、いかに北クラブに落としこんでいけばいいのか勉強して参りました。

- 資料に戦略計画を立案する際に考慮すべき事として、
- ・ クラブの元リーダー、現リーダー、次期リーダーが立案に関わる。
- ・ 幅広い見解や意見を取り入れるためクラブ全員またはクラブ全体を反映できるよう多様な代表者が立案に参加する。
- ・ 全ての意見を考慮に入れる。
- ・ 公平な立場を取る進行役や少人数の進行役が立案会議の司会を担当する。

- ・ クラブの目標が地区目標及びRI戦略計画の優先事項と目標に沿ったものとなるよう十分に検討する。
- ・ 毎年見直しを行い必要に応じて優先事項や年次目標を修正する。

とあります。色んな事に柔軟に対応していくということも含めて、今後の中長期プランを計画していく上で大事なことだなと思いながら勉強させて頂きました。

その中で青森モーニングクラブさんからCLP、中長期計画として2005、6年くらいからの計画で、今までの活動と成果の発表がありました。例会の活性化のために座席のローテーションやくじ引きなどで定位置に着かないようにし親睦を深めながら昼食を取るということなど、参考になる事もたくさんありました。CLPについては北クラブでも勉強して少しずつ積み上げてきたものがありますので、更に深めて今後この戦略計画の中に取り入れていければと思っております。

四つの奉仕部門への取り組みの明確化について、クラブ奉仕では委員、副委員長、委員長と流れを作る、委員会活動に計画性を持たせるという意味合いです。外部卓話の充実、今年度も外部卓話を年間計画に数件入れておりました。青森モーニングさんは外部卓話の充実=社会性を身に付けるという意味合いをもって取り組んでみたということでした。

北クラブでもクラブ戦略計画のメンバーを決めさせて頂きました。現会長の私と山内幹事、小金平会長エレクト、久保次期幹事、オブザーバーとして千葉会員、ガバナー補佐の源新和彦会員にも入って頂いて、ある程度の方向性を作って行ければと思っております。

幹事報告

山内一晃幹事

◎今月のロータリーレート 102円

◎五戸RC50周年記念式典、参加検討をお願いします。

親睦委員会報告

小澤一雅会員

ニコニコBOX

八戸北RC

山内一晃幹事：26年目になりました。50年を目指してがんばります。

小向龍悦会員：結婚祝ありがとうございます。

大入武志会員：結婚祝ありがとうございます。

源新和彦会員：結婚記念祝いありがとうございます。

源新育子会員：いつまでもいっしょにお酒が飲めるよう健康に気をつけ頑張ります。ありがとうございました。

奥井義則会員：誕生日ありがとうございます。
 横町芳隆会員：先週10/25誕生日でした。ありがとうございます。
 千葉清彦会員：誕生日のお祝いをありがとうございます。もう74歳になります。
 川崎益美会員：誕生日ありがとうございます。
 平野榮子会員：誕生日プレゼント、ありがとうございます。
 櫻井研司会員：早退失礼します。
 米山記念奨学金
 平野 薫会員：
 平野榮子会員：
 ポリオ・プラス
 源新育子会員：
 奥寺良之会員：

出席率報告

本日の出席率 85.29%
 前々回(10/18)の修正出席率 77.78%

卓話(ロータリー財団)

源新育子会員



資料から財団について大まかな点をお話ししたいと思います。

財団の概要。

ロータリー財団の標語。ロータリー財団を創設したアーチ・クラフが「世界で何か良い事をしよう」と呼び掛けたその言葉がロータリーの標語になっています。ロータリー財団の使命。世界理解、親善、平和を達成出来る様にすることです。六つの重点分野、優先事項。日本は比較的恵まれていて、戦争や子供達の疾病、水と衛生などは日本の国内では緊迫した状況がないので、地区の補助金のほとんどはクラブの地域に根差した取り組みが多いと思います。

寄付の分類。年次基金、これは「Every Rotarian Every Year」、毎年あなたも100ドルを寄付してくださいというのがずっとロータリーのプログラムとして謳われてきています。寄付の基盤となるもので、使い道を特に指定することなく財団に寄付するというので、この寄付は50%が3年後の国際財団活動資金(WF)、残ったものが地区の地区財団活動資金(DDF)となります。DDFは地区、クラブの裁量で色々な使い道を自由に選択できます。2015年7月からは年次基金の5%が管理運営費、寄付推進費、運営準備費に充てられることになったということが財団ニュースにありましたが、それまでは地区活動資金の運営費等は恒久基金で賄っていました。用途指定寄付やその他の寄付、ポリオ寄付という言い方をしていますが、これは予め使い道がある程度はつきりしたものに充てて寄付するものです。ポリオプラスがその代表的なものです。また災害地などへの寄付もそれに相当するものです。恒久基金、これは元金はそのままで投資した収益だけが財団プログラムの支援に使われるということで、収益の50%がDDF、残りの50%がWFに使われるというふうに振り分けられます。

新しいロータリー財団。パイロット地区に当地区も選ばれて2013-14年度から新システムで財団の運営が行われてきたのですが、2015年7月1日から全地区でシェアシステムという形でロータリー財団が運営されることになりました。これもWFとDDFに半分ずつ分かります。そしてDDFが地区補助金、グローバル補助金の二つに半

分ずつとなります。この地区補助金が私達が活動に活用させて頂いている資金となります。地区補助金は毎年20クラブくらいから応募があり8割程を満たす程度で皆さんに公平に、内容を吟味しながらガバナーや財団委員長が中心となって決めております。

財団の概要はそういった感じなんですけれども、ロータリー財団というロータリーとの関わりはどうなんだと思う方もあるかもしれませんが、ロータリーの簡単な年表を作ってみました。ロータリーとロータリー財団の運営等は全く別で行われているんですが、数年前にRI会長をやった方がほとんど財団の管理委員長になっているので、ロータリーの中でロータリーの人達が財団を運営しているということになります。ロータリーそのものは皆さんご存知で改めてということはないのですが、1905年2月26日、ポール・ハリスが友人3人とシカゴで会合を持ったのが最初でロータリーの創立記念日となっています。その時はクラブは世界に一つ会員4人となります。1910年8月、ポール・ハリスが初代会長になり全国ロータリークラブ連合が組織され、11月に国際ロータリークラブとなります。その時は1ヶ国、16クラブ、会員1,085人です。財団がアーチ・クラフによって創立された年度には8ヶ国、250クラブ、会員27,000人となります。2005年ロータリー100周年この時には国と地域で166、31,936クラブ、会員1,219,532人となっています。それから10年ほど経ち、日本は2,269クラブ、会員89,527人となっています。1996年が会員数のピークで世界で130万を越えていましたし、日本も13万に届くくらいの会員数がおりました。

財団の歴史。RI会長賞にある項目、26ドル50セントから出発しています。先に言ったように「世界に何か良い事をしよう」という提案で、標語となりました。当時はロータリー基金という名前でスタートし、それが5,000ドルになり、一番の転機はポール・ハリスが亡くなった時にポール・ハリス記念基金を設置し、そこで初めての財団のプログラム、国際親善奨学生のプログラムが実施されました。現在、活動の幅が広がり煩雑になってきたということで、簡略化して成果を挙げられるものに集中してやりたいということで、2010-11年度から3年間試験的に当地区も選ばれて水事業をやりましたけれども、新しいシステムで財団を運営して、2013-14年度から導入されることになりました。そして2015年7月1日からはシェアシステムということで、全クラブがその形で財団運営することになりました。

ロータリーとロータリー財団でそれぞれ運営は違いますが、奉仕を追求する、理念を実現するための両輪のようなもので、ロータリーの使命、ロータリー財団の使命、それぞれ世のため人のために推進すること、実施して成果を挙げるためにロータリーにとって財団はなくてはならない、奉仕を形として実現することが難しいということです。

地区方針のRI会長賞に挑戦する、そのための六つの項目の中で、財団は三つの項目のクリアを各クラブに支援することになっています。クラブによって財団寄付の様子は様々ですが、寄付というのは強制されるべきものではないので難しい所があります。その寄付がどう使われ自分の寄付がどのように役立っているのかが分かるような情報をしっかりと皆さんにお伝えして納得して寄付をして頂けるような形にしていければと思っております。

点鐘